

川区の島津山と称される高台に建つ旧島津家本邸。島津宗家30代当主、忠重公の邸宅として建設された。

設計したのは、鹿鳴館やニコライ堂の設計者として知られる、英国人建築家のジョサイア・コンドル。明治39年（1906年）に設計を委託された後、数度の設計変更を経て大正4年（1915年）、建物は完成した。その後、洋画家として知られる黒田清輝の指揮のもと、館内の調度が整えられ、大正6年に落成の日を迎えた。

建物は地上2階、地下1階建ての煉瓦造りに白いタイルが貼られている。1、2階とも南側の庭園に面して、古代ギリシャ・ローマ風の列柱を備えた美しいベランダが弓形に張り出している。

建物の1階には、大小の応接室や食堂、階段室などが設けられている。玄関の扉には、島津家の家紋である「丸に十の字」のステンドグラスが、大階段の踊り場にも大きなステンドグラスが設置されている。

これらのステンドグラスをはじめ、天井の漆喰飾りや暖炉の彫刻、大階段の手すりなどは、ほぼ当時のままの姿を残している。末広がりの大階段は、失われた鹿鳴館の階段と雰囲気と同じくするといわれている。

1階の応接室は、庭園に向けたソファに腰掛けると、窓枠とベランダの列柱が



東京のレトロ建築を歩く

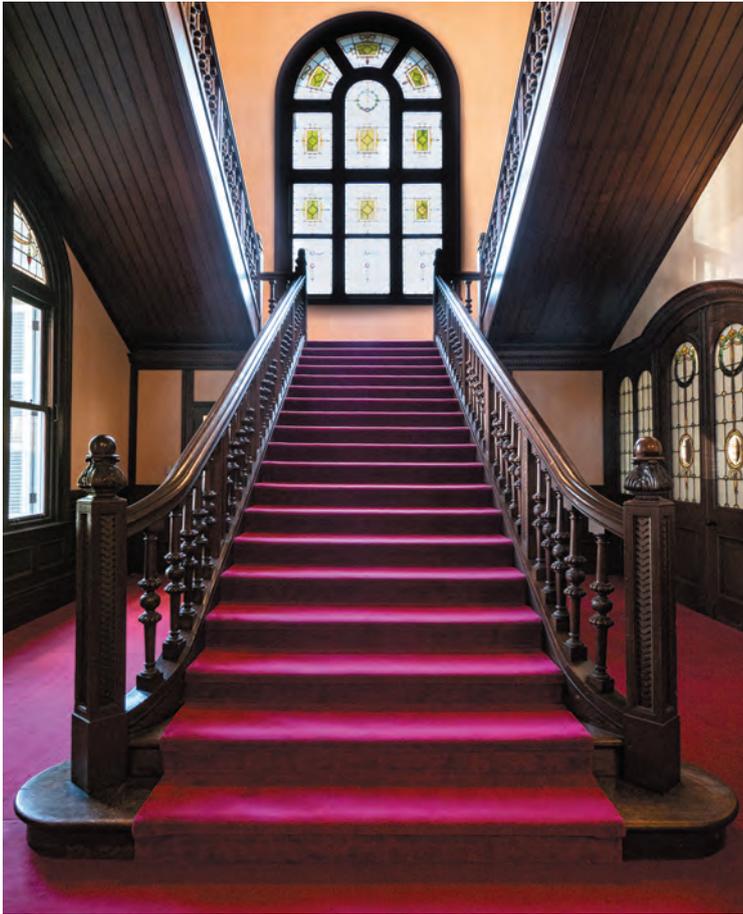
第7回

旧島津家本邸 本館 (清泉女子大学本館)

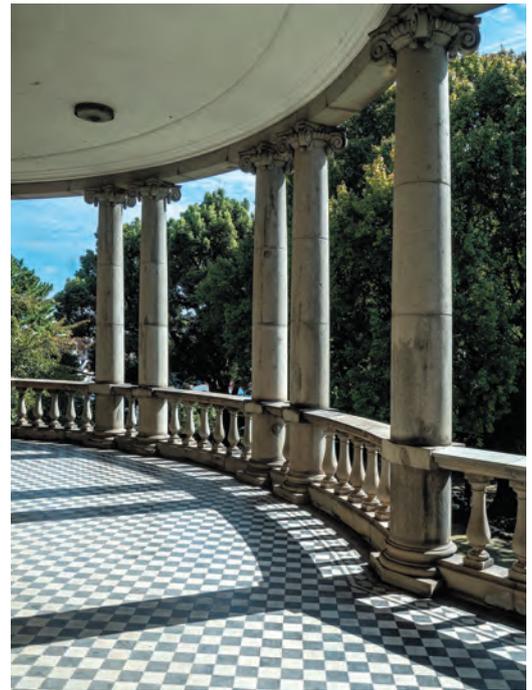


DATA

名称 旧島津家本邸 本館
所在地 東京都品川区東五反田三丁目16番21号
完成 大正6年
設計者 ジョサイア・コンドル



ステンドグラスから光が降り注ぐ大階段



2階バルコニーのタイルは完成以来1枚も剥がれていない



玄関扉のステンドグラスには島津家の家紋が

重なり、庭の風景が妨げなく広がっているように見える。これは、設計者コンドルの仕掛けだといわれている。

2階には寝室や子供部屋などのプライベートルームがあった。2階ペランダには、白黒のチェッカー柄のタイルが貼られている。このタイルは完成以来、1枚も剥がれることなく存在している。

この建物は、現在でも清泉女子大学の校舎として使用されている。年に数回の一般公開日以外は、非公開なので注意が必要。

令和元年（2019年）12月には、国の重要文化財に指定された。

● 国



1階応接室は窓枠でペランダの列柱が隠れる工夫がなされている